月崎 時央

地が版アクセス

向精神薬を安全に減らすための情報発信

ゆっくり減薬のトリセツ

文・ジャーナリスト

毎月1回 1日発行 購読料 定価150円 (本体136円) 年間1,500円(税込み) 振替 00120-0-19017

〒 162-0836 東京都新宿区南町 20 TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

発行所 ㈱地方・小出版流通センター 編集 アクセス編集委員会

精神科で処方される向精神薬には依存 性がある

『新版 ゆっくり減薬のトリセツ』は、 精神科や心療内科を受診して処方される「向精神薬」という脳に作用する薬 を服薬している方が、薬を調整するための様々な注意点やコツをとりまとめた「メンタルの薬の取り扱い説明書」です。

厚生労働省が令和4年2月に発表した第7次医療計画の統計によると平成29年(2017年)の段階で精神疾患を有する患者さんは419万人です。これは平成14年(2002年)の258万人から大幅に増えています。まだ正確な最新データは発表されていませんが、コロナ禍を経て精神面に不調を訴える方はますます増加し向精神薬を服薬している方も増えています。

このような状況の中で、本書のような向精神薬の取り扱い説明書を作成した一番の理由は、実は向精神薬のほとんどには、副作用や依存性があり調整がとても難しいことを知り、ジャーナリストとしてこれを世間に伝えたいと考えたためです。

医療機関で「習慣性はない軽い睡眠薬です」とか「不安をとるお薬です」と言われているものであっても、個人差はありますが実は依存性があるものが多いようです。

このためしばらく服薬していると 「耐性」ができて、もとの量では効か なくなり薬が増える"処方量依存"あ るいは"常用量依存"と呼ばれる状態 にもなりやすいのです。もとの量では



【新版 ゆっくり減薬のトリセツ】月崎時央 著/発行:読書日和/B5判・定価(本体 2200円+税) ISBN 978-4-9910321-4-1

足りないため不調をうったえるたび に、薬が増え、また転院して薬が変わるなどの理由で、次第に多剤大量処方という状態になっている方は少なくありません。

本書ではこういった向精神薬で悩んでいる方、薬を服薬しても、症状が全然良くならないという方が、もし「薬を減らしたりやめたりしたい」と思った時のノウハウを、まとめてあります。

自分の服薬する薬についての知識を持っために

精神科で処方される向精神薬として 処方される薬は、抗精神病薬、抗うつ 薬、抗不安薬、睡眠薬、気分安定薬、 抗てんかん薬、中枢神経刺激薬 抗パーキンソン薬、抗認知症薬の9種類です。

最近は、特にこの中の睡眠薬や抗不 安薬といった薬が、精神科医以外の診 療科、例えば内科や、耳鼻科、整形外 科などでもあまり説明されることなく 処方されています。一定の効果を感じ ている方もいるかもしれませんが、「服 薬し始めた当初だけは効き目があった がその後は副作用が強く体調がすぐれ ない」という方も多いかもしれません。 これは薬の耐性によるものと思われま す。

本書では、「自分の手で自分の口に 運び服薬している薬」について知るた めに、お薬手帳を読み解く方法をまず 解説しています。

そして減薬など薬を自分の体調に合わせて調整するためには、服薬している向精神薬の種類や特徴について知識を持つこと、そして薬が必要なくなる、あるいは最小限で暮らせるように身体や精神面を整える環境面の整備が必要だということがわかってきています。

こういった技術的なノウハウと、回復のための環境整備などを体験者のコメントとイラストをつかって、項目ごとにわかりやすくまとめました。

向精神薬の調整は、脳に作用する強力な薬のためある程度の知識を持って時間をかけ慎重に行う必要があります。一気に薬を抜いたことにより、脳が誤作動し、視神経の異常や不随意運動、疼痛などの後遺症が出て回復しないなど危険な場合もあるからです。「薬のことはお医者さんに任せればいいのでは?」と思う方も多いと思います。しかし精神医療の現場を取材すると、医師は薬の処方はしても減薬についての知識や経験がない場合がほとんどだという衝撃的な事実に直面します。

「薬については医師の指示が絶対正 しい」と信じている方も多いと思いま すが、こと精神の薬に関しては、主体性が大切であり、信頼できる医師に出会うことは大切ですが、「医師任せでは難しい」ということを伝えることも本書の大切なテーマと考えています。その上で、医師や薬剤師などの専門職に協力してもらう方法についても紹介しています。

私の元には、減薬の知識のない医師の処方変更のもとで体調を崩してしまう患者さんから、たくさんの相談がくるため、そのようなリスクも紹介しながら本書を作りました。

向精神薬の問題点に気付かされた体験 者との対話

ところで私が精神保健福祉について取材を開始したのは1993年です。きょうだいが躁うつ病を発症したことがきっかけです。約25年間もの間、精神障害者の家族として、ジャーナリストとして精神医学の学会に行き、病院や精神科医を取材し、メディアにも様々な記事を書いてきました。

そして私は長い間「精神の病気は一度かかると回復することのない慢性疾患であり、一生薬を飲み続けなければならない」という精神医学会の言説を前提としてメディアで情報発信をしてきたのです。

しかし現在の私は、これは間違っていると確信しています。このため過去に私がおこなった情報発信は向精神薬の問題を見落としていたという意味でかなり誤っていたと考えています。私がそのことに気づいたのは今から7年前のある日でした。

実はそれ以前にも私は、当事者のみなさんに取材し体験談を出版してきましたが、それは「服薬している精神障害者を応援する」といういわば福祉的な美談をテーマとした本だったと思います。

過去のインタビューの中で多くの患者さんたちから何度も「薬の副作用が辛い」「医師が薬をどんどん増やす」という訴えを聞いていたにもかかわら

ず、それは治らない慢性疾患を抱えた 患者さんの「愚痴」として「そうだね、 大変だね、でもお薬は先生の言う通り に飲まなきゃね」とうまくその言葉も 問題もスルーした視点で記事を書いて きたのです。

ところがその日聞いたその患者さん のストーリーは、向精神薬服薬開始か ら減薬、断薬まで、薬を軸に詳しく語 られたもので、私は大きな衝撃をうけ ました。

数時間かけてその人が語った物語を聴きながら、私の中で急にそれまでの精神医療に対する考えが覆される大きなパラダイムシフトが起きたのです。「もしかしたら向精神薬には問題があるのでは」という疑問が瞬時に湧き上がってきました。

向精神薬の減・断薬体験者を全国に訪 ねて

すぐに海外の情報や論文などを「薬害」という視点で集めると、やはり向精神薬の依存性に着目した多くの情報に行きついたのです。

これはさらに確かめなければいけないと思い、私はチラシを作り、全国の「向精神薬を減・断薬して回復した人のインタビュー」をおこなうことにしました。北海道からも九州からも情報が寄せられました。私はできるだけ多くのみなさんに話を聞きに行きました。

また本書の監修者でもある減薬を支援する愛知県の増田さやか医師が紹介してくれた患者さんたちに10人もお話を聞く機会を得ました。その後は同じく監修者で断薬当事者のNoryと「減薬ダイアローグカフェ」というワークショップを東京・浅草で定期開催することしました。Zoomによる交流会や研究会もコロナ禍が始まる以前の2017年から続けています。

このような経緯を経て、100人近い当事者との対話、インタビューによる体験談収集により溜まった記録を整理して作ったのが、2019年にクラウドファウンディングで作った『ゆっくり減薬のトリセツ』です。

『ゆっくり減薬のトリセツ』を使って対話会や勉強会を2年間続け、さらに足りない情報やわかりにくい部分などを整理して2022年5月、『新版ゆっ

くり減薬のトリセツ』を刊行するに至 りました。

現在も本書を利用して毎週『向精神薬について患者の語りから考える研究会』を開催しています。本書のタイトルに「新版」とあるのはそのような理由からです。精神科の問題については、薬理学的にも、精神医療制度的にも、また心の回復といったテーマについてもまだ解明されていないことも多く、取材を続けていくことになると思います。このためこれからも新しい情報を加えて更新していくことになりそうです。

困難を抱えて孤立している人に情報を 届けたい

『新版ゆっくり減薬のトリセツ』を、 浜松市の読書日和から発行させていた だくことになったのは、読書日和の社 長の福島憲太さんの魅力に惹かれたか らです。福島さんは弱視の作家でもあ り、出版の仕事に向き合う姿勢が大変 エネルギッシュです。ご自身の体験か らもさまざまな障害をもつ方のことを 深く理解しようとしてくれます。福島 さんなら、メンタルの問題で苦しい思 いをしている方に本を届けることに協 力してくれると直感し出版をお願いし ました。また地方・小出版流通センター であつかっていただくことで、なかな か医療や薬関係の情報が届きにくい、 地方都市で同じ困難を抱えている患者 さんたちにも情報を届けたいという思 いがあります。

本書は向精神薬を全否定するものではありませんが、服薬によって困難を抱えてしまった方が、向精神薬の調整により少しでも回復を取り戻せることを願って作っています。また本書を通じて、読者の皆さまが、緩やかなコミュニティを形成し、困難を抱えて孤立しがちな方々が「一人ではない」ことを実感できたら幸いです。

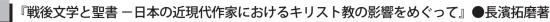
*

(つきざき ときお/ジャーナリスト)

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。







本書は戦後文学を聖書という観点から概観し たものである。著者は戦後キリスト教文学の研 究者。なぜ戦後文学なのか。第二の開国とも呼 ばれる戦後は、この国が大きな混乱と転換を余 儀なくされた時期であり、これまでになく哲学 や宗教、とりわけキリスト教が文学者たちに問 題とされ、聖書を引用しあるいはその世界観を 題材とした作品群がかつてないほど多く生み 出された。聖書を基軸として見た時もやはり 1945年は文学史の分岐点となる年なのである。 取り上げられた作家は、六つのカテゴリーに分 類されている。既成作家と位置付けられている のは、戦前から活躍していた川端康成や堀辰雄、 北原武夫である。無頼派作家としと石川淳、太 宰治、戦後派作家として椎名麟三、武田泰淳、 大岡昇平、中間小説として石坂洋次郎、井伏鱒 二、林芙美子、第三の新人として島尾敏雄、遠藤周作、そして戦後評論というカテゴリーでは河上徹太郎や吉本隆明。著者の視点として押さえておきたいのは、取り上げた作家、批評家のほとんどは、キリスト教信仰者としてではなく、大正教養主義の流れを汲んで、あるいは明治期以来何度か訪れたドストエフスキーブームを介して聖書に接してきた、とされていることだろう。その点洗礼を受けキリスト教信者として聖書をその作品に反映させてきた椎名麟三や遠藤周作と明確な区別がある。本書が『戦後文学とキリスト教』てはなく『戦後文学と聖書』と題されているのは信仰の如何を問わずこの両者を包括的に論ずるためである。(N)

◆ 1800 円・四六判・265 頁・かんよう出版・大阪・ 202203 刊・ISBN9784910004051

『英語への旅 増補新版 -世界を席巻する言語の正体』●内田謙二訳 / ジュヌヴィエーヴ・エルヌフ著



英語はウイルスだ! ― フランス人の理系女性学者である著者が、世界中で猛威をふるう覇権言語(英語)の歴史と仕組みを、理学者ならではの視点から詳細に、解剖学的に、批判的に分析した稀な一冊。そこから、わたしたち日本人にとってもかけがえのない "免疫" = 母国語を取り戻す術を具体的に提言する。さらに、例えば「R」と「L」の聞き分け方等、他には載っていない、この本ならではのユニークで役立つ英語や言語上の知識・情報等も満載。

目次の一部を見ていこう――英語の世界化、ジャンヌ・ダルクの罪?/英語は鯨に乗って日本へ/「マックドナルズ」日本初の英語塾/日本人が英語を話し始めるとき/英語、この育ちの悪い言葉/英語はどのように出来たか/英語、フランス香水で装ったドイツ輸出品/英語はお

茶と共に米国へ/英語は変種し、米語となる/ヤマト英語、ジャパニッシュ/世界が英語へ突進を始めた!/2カ国語を使う子供の利点と欠点/日本語と英語の共通点/言葉は人の感性や理性を作る/最後の砦、日本語/式部よ眼を覚ませ、皆の気が狂ってしまったetc 元はドイツ語の方言程度でしかなかった英語が、本来の国際語であったフランス語や、万国共通語を目指したエスペラント語などを凌駕して、なぜここまで世界を席巻したのか……。

著者は、1945年フランス生まれで、トゥール大学医学部、薬学部、理学部卒業の薬学国家博士。ノルマンディ大学医学・薬学部教授や厚生省付き薬事監察官等を歴任した。(和)

◆ 2200 円・四六判・267 頁・**一葉社・**東京・ 202205 刊・ISBN9784871960861

『暴れ川と生きる一筑後川流域の生活史』●澤宮優著



筑後川はその源を熊本県阿蘇郡の瀬の本高原 に発し、大分県日田市において、九重連山から 流れる玖珠川を合わせ、福岡県朝倉市、久留米 市等を下り、佐賀県に入り、有明海に注ぐ、延 長 143km、流域面積 2860km2、九州一の大河 である。昔から筑後川流域の人々に水害をもた らしたが、灌漑用水、水道用水、舟運などの惠 みも与えてきた。筑後川の三大水害は明治22 年7月、大正10年6月、昭和28年6月の災 害である。明治の水害では久留米市で田畑を失っ た農民が、九重の飯田高原に移り住む。大正の 洪水では大山村中川原が土砂に埋まった。昭和 28年の水害は杷木町の原鶴温泉も甚大な被害を 受けた。建設省は水害防除のため原鶴放水路を 開削し、上流に松原ダムと下筌ダムを建設。下 筌ダムの建設では、水没者の一人、室原知幸が

ダム建設に異議を唱え、争いとなった。平成 29 年 7 月線状降水帯が、朝倉市、東峰村、日田市を襲い、筑後川の支川、北川、赤谷川・大肥川、花月川流域では、人工林の山肌が滑るように崩れ、濁流と大量の流木が民家を襲った。筑後川本川の水害ではなかった。

水害以外では、日田杉の筏流し、日田の鵜飼、河童を愛した火野葦平、鯉とりましゃん、筑後川の戦い、宮入貝と日本住血吸虫、水神信仰、泥うちとおしろい、珍魚エツなどの話題について述べられている。筑後川は災害をもたらすが、一方では豊かな文化・文明を創り出す。著者は筑後川との共生を願っている。

(古賀河川図書館・古賀邦雄)

◆ 1900 円・四六判・255 頁・**忘羊社・**福岡・202207 刊・ISBN9784907902292

『海の領主忽那氏の中世』●山内譲著



忽那氏は伊予国忽那島を拠点に鎌倉期から戦 国期にかけて活躍した海の領主である。「海の 領主」とはあまり馴染みのない用語かもしれな い。いったい海賊とどこが違うのか。という疑 問がすぐに沸き起こってくる。

日本列島における海賊としてすぐに思い浮かぶのは、熊野、村上、松浦などであろう。かれらは水運としても有名で歴史上重要な役割を果たしたのはよく知られている。何よりも重要な点は海域を航行する船舶に通行料や警固料を要求していることだ。そこに海賊の本分があると著者はいう。一歩間違えれば強奪行為にもなりかねない。今風にいえば広域暴力団と変わらない。もっとも陸上の武士も同じことが言えるが。忽那氏が通行料を徴収している気配がない。忽那氏の経済基盤はなにより土地であった。そも

そも忽那氏の祖は忽那島の開発領主であるとの 伝承がある。しかも藤原道長の曽孫だという。 忽那氏の史料上の初見は鎌倉初期。幕府から忽 那島庄地頭職に補任されるが、注目する点は忽 那氏が幕府から直接文書の発給を受けとる立場 だったこと。西国御家人では異例の本領安堵の 御家人だった忽那氏。じゃあ、海の領主と陸の 領主との違いはあるのか。それは「海城」を保 持しているかどうか。海城は航行する船舶の監 視や周辺海域ににらみを効かせる役割を持った 城。忽那氏も海城を数か城所持。瀬戸内海の各 地及び外に拡大進出。南北朝期に忽那氏は海の 領主として繁栄、主に南朝方として活躍する。

(1)

◆ 2500 円・A 5 判・240 頁・**高志書院・**東京・ 202205 刊・ISBN9784862152282

『これからはデザインの時代 -松下幸之助のデザイン観とデザイナー真野善一の苦悩』●増成和敏著



「これからはデザインの時代」。昭和 26 年アメリカへの視察旅行から帰国した松下幸之助はそう言ったと伝えられるほど、早くから家電製品においてもデザインというものを重要視していました。

本書はそんな松下電器の初期のデザイン部門を、その中心的存在としてリードした真野善を中心に描き出します。真野は電気ポットやラジオから宣伝バスや蓄電池まで様々な製品のデザインに携わりました。本書には彼の電気ポットのデザインが当時の他社のデザインと並べて紹介されていますが、とても50年以上前のものとは思えない現代的なもので、松下幸之助の強い要請で入社したという真野の力量を感じさせます。しかし一方でその人となりは一企業人としては不適格な面もあったとの証言も残され

ています。真野自身は後進を育て、社内のデザインを一手に引き受けられるような強力なデザイン部門を打ち立てようと企図していきました。しかし真野のマネジメント能力が不安視されたのか、育てたデザイナーたちは各製品の製造部門の下に分散して配属されていくことになりました。松下幸之助はまた、真野の関与しない形で外部にデザイン会社を別個に設立し、多くの製品のデザインを手がけさせてもいます。優れたデザインの才能と自負を持ちながら、大企業の中で生きることを選択した真野の苦闘が活写されるとともに、工業デザイン黎明期の松下電器のデザイン思想なども知ることが出来る興味深い一冊です。(副隊長)

◆ 1800 円・四六判・159 頁・**美学出版・**東京・ 202204 刊・ISBN9784902078749

『降伏の時 -元釜石捕虜収容所長から孫への遺言1945. 8. 15-2022』●稲木誠著



第二次世界大戦中、日本国内には130ヵ所もの連合軍捕虜収容所があり、アジア・太平洋地域から「地獄船」で3万6千人が輸送されてきていた。わが国は捕虜の待遇に関するジュネーブ条約に加入しておらず、炭鉱や工場での過酷な労働と虐待、貧弱な医療体制、劣悪な生活環境と飢え、加えて連合軍による爆撃に巻き込まれ、一割近くが命を落とした。

釜石捕虜収容所所長の稲木誠は、不正なき管理を頑なまでに心して任に当たったが、BC級戦犯として5年半の刑に服し、出征前の教諭の職からも去った。終戦から30年が経った1975年、オランダ人元捕虜から釜石市長に突然一通の手紙が届いた。それは、釜石での扱いが極めて人道的だったことを証言するものであり、そこから稲木と元捕虜たちの親密な交流が始まる。稲

木は 1988 年に他界するが、終戦の年の 8 月 15 日から 9 月 15 日まで、400 人の捕虜を如何に安全に引き揚げさせるかと腐心する様子を綴った 132 枚の原稿「降伏の時」が、ジャーナリストになっていた孫の小暮聡子によって発見される。小暮は米国に飛び、パンドラの箱を開ける覚悟で戦友会に参加し、祖父が捕虜収容所長であったことを告げる。「降伏の時」全文、稲木と元捕虜で交わされた沢山の手紙、小暮の米国での体験から、苦しみの記憶は過去と向き合うことでしか癒せないと知らされる。今こそ、愚かな戦争を生まないために、戦争の記憶を語り継いでいかなければならないことを思う。

(飯澤文夫)

◆ 1900 円・A 5判・227 頁・**岩手日報社・**岩手・ 202204 刊・ISBN9784872014303

『カルチャーセンター』●松波太郎著



教養、語学、趣味など多彩な講座があるカル チャーセンターだが、この小説の舞台となるの は文学というジャンルの小説創作講座。『万華鏡』 という作品の合評シーンから始まり、合評の最 後で作者はこのクラスの最年少のニシハラくん だと明かされる。僕(=マッナミくん)は『万 華鏡』を気に入っており、講座の後の飲み会が 終わってからも僕の自宅で二人で小説談義を交 わすような間柄だった。今度は僕の小説『関誠』 を合評される番になり、ニシハラくんからは「オ ブセッション(強迫観念……魔物や恐怖観念に 取り憑かれていること)が気になる」と言われ、 小説自体が"魔物"のようにも聞こえてくる僕 だったが、その後、公募の新人賞を受賞してデ ビュー。センターからも足が遠のいていき、や がて諸事情で講座自体が閉講となる。

ところが、ニシハラくんが自死。死後数年たってから僕は自分の小説に"作中作"の形で『万華鏡』を発表する。実在する小説家や編集者、講座の元受講者などの小説に対するコメントも掲載。この本全体に万華鏡のごとく散りばめられた何故小説を書くのか、小説とは何かという問いや答え。"一度消えたり、沈んでいったって、また何度でも現れてこられるのが"小説"ってことなんだよね?""ある意味、小説は詐欺かもしれない。でも、こんなに幸福な詐欺の体験もないだろうと思う。"など書き手も読み手をもうならせる金言の数々。呼吸のリズムを大切にしているという独特の文体も含めて不思議な魅力に溢れた小説である。(Y)

◆ 1700 円・四六判・267 頁・**書肆侃侃房・**福岡・202204 刊・ISBN9784863855137

地小版

流通センター

ジャンル別 **新刊案内**

2022 年 5 月 1 日~ 31 日 流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は 所在地の北から南の順に並んでいます。 表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

- ◆S-style 06 vol. 690 プレスアート編 298mm× 232mm 105頁 450円 プレス アート [宮城] 978-4-503-22603-7 22/05
- ◆GREEN REPORT 509 2022年5月号 廣瀬 仁編 A 4 191頁 2546円 地域環境 ネット [埼玉] 978-4-909864-41-3 22/05
- ◆かまくら春秋 No. 624 2022年4月号 伊藤 玄二郎編 B6 104頁 327円 かまくら春 秋社 [神奈川] 978-4-7740-0854-7 22/04
- ◆書**21** No. 75 澤田 博史編 A4 96頁 2000円 匠出版 [神奈川] 978-4-925212-84-7 22/04
- ◆くらしと教育をつなぐ We No. 238 2022年6/7月号 中村 泰子編 吉田 真紀子編 A5 80

頁 830円 フェミックス [神奈 川] 978-4-910420-12-7 22/06

- ◆Be! 147号 No.176 今成 知美編 A5 109頁 870 円 アスク・ヒューマン・ケア [東京] 978-4-909116-29-1 22/06
- ◆洋学史学会研究年報 洋学 2 9 (2 0 2 2) 洋学編集委員会編 A 5 244 頁 4 0 0 0 円 岩田書院 [東京] 978-4-946540-29-5 22/04
- ◆宗教民俗研究 第32号 日本宗教民俗学会編 A5203頁2000円 岩田書院 [東京]978-4-86602-700-522/03
- ◆仏事 No. 260 2022年 5月号 奥村 昇編 A4 80頁 1500円 鎌倉新書 [東京] 978-4-503-22591-7 22/05
- ◆仏事 No. 261 2022年 6月号 奥村 昇編 A4 80頁 1500円 鎌倉新書 [東京] 978-4-503-22608-2 22/06
- ◆月刊住職 No. 282 2022 年5月号 矢澤 澄道編 A5 185

頁 1 3 6 4 円 興山舎 [東京] 978-4-910408-10-1 22/05

- ◆子どもの文化 No. 6 1 0 2022年6月号 片岡 輝編 A5 47頁 290円 子どもの文化研 究所 [東京] 978-4-503-22607-5 22/06
- ◆子どもと本 第169号 子ども 文庫の会編 A5 48頁 590 円 子ども文庫の会 [東京] 978-4-906075-74-4 22/04
- ◆セセデ v o 1. 7 3 5 2 0 2 2 年 6 月号 朝鮮青年社編 B 5 47 頁 4 8 2 円 朝鮮青年社 [東京] 978-4-503-22604-4 22/06
- ◆東京かわら版 No. 587 2022年6月号 佐藤 友美編 203mm × 110mm 202頁 727円 東京かわら版 [東京] 978-4-910085-22-7 22/05
- ◆みんなの図書館 No. 542 2022年6月号 図書館問題研究会 編 A5 80頁 750円 図書館問 題研究会 [東京] 978-4-503-22594-8 22/05
- ◆おりがみ No. 563 2022 年7月号 日本折紙協会編 A4 51 頁 728円 日本折紙協会 [東京] 978-4-86540-116-5 22/06
- ◆海運 No. 1136 2022年 5月号 日本海運集会所編 A4 68 頁 1200円 日本海運集会所 [東京] 978-4-503-22592-4 22/05
- ♦ Fuji Airways Gu

売行良好書

期間: 2022 年 5 月 15 日~6 月 14 日 ※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

[出荷センター扱い]

(1) 『水上バス浅草行き』1700 円・ナナロク社 (2) 『こころの風景』2000 円・海風社 (3) 『左川ちか全集』2800 円・書肆侃侃房 (4) 『暴れ川と生きる』1900 円・忘羊社 (5) 『つながる沖縄近現代史』2200 円・ボーダーインク (6) 『わたしとなかよし』1300 円・瑞雲舎 (7) 『たぷの里』1200 円・ナナロク社 (8) 『出雲王国とヤマト政権』2250 円・大元出版 (9) 『すべては神様が創られた』1600 円・木星舎 (10) 『井の頭公園いきもの図鑑 改訂版』1600 円・ぶんしん出版 (11) 『負け戦でござる。』1600 円・花乱社 (12) 『不謹慎な旅』2000 円・弦書房 (13) 『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』800 円・リーブル出版 (14) 『沖縄タイムス社











[ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本―センター扱い図書]

(1) 『お砂糖とスパイスと爆発的な何か』1500 円・書肆侃侃房 (2) 『千夜曳獏』1800 円・青磁社 (3) 『負け戦でござる』1600 円・花乱社 (4) 『恐竜学博物館 図鑑』900 円・日本文教出版 (5) 『つながる沖縄近現代史』2200 円・ボーダーインク (6) 『某月某日 シネマのある日常』2300 円・編集工房ノア (7) 『出雲王国とヤマト政権』2250 円・大元出版 (8) 『沖縄さかな図鑑』1800 円・沖縄タイムス社 (9) 『高尾山に咲く花』1800 円・有隣堂 (10) 『サルタ彦大神と竜』2000 円・大元出版 (11) 『今日からぼくがクッキング』1600 円・岐阜新聞社 (12) 『海の領主忽那氏の中世』2500 円・高志書院 (13) 『北海道いい旅研究室18』791 円・海豹舎 (14) 『私がヤングケアラーだったころ』1200 円・みずのわ出版 (15) 『芭蕉布物語』1500 円・榕樹書林 (16) 『多摩学』2500 円・ぶんしん出版 (17) 『調査されるという迷惑』1000 円・みずのわ出版











以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。 URL: http://neil.chips.jp/chihosho/ ツイッター公式アカウント:@local_small

トピックス --- ★★★

▼モンゴルによる中世のキエフ (現キーウ) 包囲の様子が収録された 『絵入り年代記集成』が描くアレクサンドル・ネフスキーとその時代』 (成文社刊全2巻箱入り ISBN9784865200577) が、現下のウクライナ情勢の影響で、本体価格



12,000円と高額であるにも関わらず、新聞紙上で取り上げられるなど注目を浴びているようです。現下のウクライナ情勢を歴史的に考える上

でも有益な書物であるということに加え、こにに描かれている当時の状況が、現下のウクライナの状況に酷似しているということもあるようです。

▼ロシア及びスラヴ専門出版社である成文社からは、やはり今回のウクライナ情勢を歴史的に理解する上で参考となる 【『ロシア原初年代記』を読む-キエフ・ルーシとヨーロッパ、あるいは「ロシアとヨーロッパ」についての覚書】(本体価格 16,000 円 ISBN9784865200119) も刊行されています。「今日のロシア人、



ウクライナ人、ベラルーシ人はキリスト教的伝統の中で、ヨーロッパの一員としてその歴史を開始した。その伝統はキエフ時代(9~13世紀)に

形成された。キエフ文化はこれらすべての人々の共通の「揺り籠」である。キエフ・ルーシはその豊かな歴史的遺産をもって、その価値を尊重しようと思うすべての者にとって開かれているのである。」(【『ロシア原初年代記』を読む・キエフ・ルーシとヨーロッパ、あるいは「ロシアとヨーロッパ」についての覚書】帯文より)

